

① L G B T（性同一性障害）に対する対応と取り組みについて

昨今、L G B Tセクシャルマイノリティの方々の存在が世間にも知られつつある。そして、多くの方は、性同一性障害は、「病気」だと考え、周りに正しい認識と周知と理解がされていない。この世は、男女しかいないと社会で認識され、セクシャルマイノリティの方は、完全に除外され、ステレオタイプで植えつけられ、少なくとも「変な人」と偏見で見られがちである。そのため、多くのセクシャルマイノリティの人が、幼い頃から悩み、苦しみ、親や友人、社会にカミングアウトができなかった。これからは、L G B Tの方々が、理解されみんなと同じように同じ価値観で平等に生活、就職できるような社会構築をしていく必要がある。そこで、この問題について幼稚園、小、中学校での対応と取り組みについて伺う。

- (1) L G B T（性同一性障害）についての教育委員会や町の考えを伺う。
- (2) 教職員や教育委員会、保護者、子ども達へのL G B Tの理解と周知はどのようにしていくのか伺う。
- (3) 理解と周知を図るため、子ども達や保護者を対象とした講演会や、授業の中で話し合う機会を設けてはどうか伺う。
- (4) 対応策として一つの手段である、男女混合名簿を取り入れ、きめ細やかな対応を図ってもらいたい意見を伺う。

② 災害時の防災対策と要配慮者・避難行動要支援者への対応について

今年4月、未曾有の熊本大地震がおき4カ月が経過した。未だ余震が2000回以上も続いている。甚大な犠牲者と被害をもたらし、自然災害の恐ろしさを改めて痛感させられた。被害が特に酷かった益城町では、今でも総合体育館に400人以上の被災者が生活を余儀なくされている。町は、がれきと崩壊した家屋で手つかずのままの状態だった。益城中央小学校や総合体育館での避難所生活について被災者から体験談やこれまでの状況を伺うことができた。災害発生時から避難所生活に至るまで被災者・行政と支援者の関わり方などについての問題点が露呈した。以上のことをふまえ長与町地域防災計画に基づいた今後の取り組みを伺う。

- (1) 災害時に支援を必要とする避難行動要支援者名簿作成の進捗状況と情報提供の体制整備の進捗状況を伺う。
- (2) 町内・近隣との防災訓練計画の開催予定はいつか伺う。
- (3) 災害時の行政と民生委員、自治会長、社会福祉協議会、福祉団体、医療などとの連携は、どのように取り組まれているのか伺う。
- (4) 非常災害について今後の課題や問題点・対策など視野にいれた取り組みを伺う。